

# 西南学院の

# 女性宣教師たち

学院の礎を築いた女性たち



学院創立35周年に際し再来日したモード B. ドージャー。児童教育科(鳥飼校舎)での歓迎式(1951年)



中学部で教壇に立つナオミ E. シェル(1920年頃)

会期

2024年  
3月1日(金)～12月20日(金)

時間

9:00～17:00  
(最終入室は16:30)

入館  
無料

休館日

日曜日、  
夏季一斉休暇中

会場

西南学院百年館(松緑館)  
1階 企画展示室

主催

学校法人西南学院

# 開催概要

1916年に米国南部バプテスト派の宣教師によって創立された西南学院は、創立以来、多くの宣教師の働きに支えられてきた。しかし、2004年を最後に学院に宣教師が不在となった。その背景には、米国南部バプテスト連盟の信仰が根本主義（ファンダメンタリズム）へ舵を切ったことが挙げられる。同連盟の信仰宣言の改訂は、「女性は牧師にはなれない」、「妻は夫に従うべき」など根本主義の影響を色濃く反映したものであり、宣教師たちはこの信仰宣言に賛同する署名を拒み、その職を辞すことになった。

西南学院の発展は女性宣教師の献身とともにあった。この展覧会では西南学院を支えた女性宣教師の事績に光を当て、今日まで継承される女性宣教師たちの働きを資料とともに振り返る。

## 第1章 学院草創期の女性宣教師たち

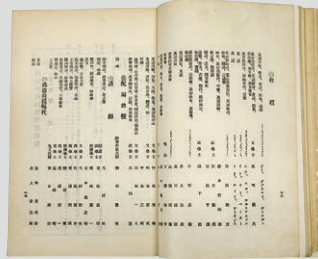
1906年に C.K. ドージャーら 3 人の宣教師は、その妻を伴って日本に到着し、福岡で新任宣教師として歩み始めた。当時宣教師の妻は「補助宣教師」と位置づけられ、その働きを限定されていた。こうしたなか女性たちの働きにより幼児教育の礎が築かれる。1916年、ドージャーが男子中学校として西南学院を創立すると、女性の宣教師たちが教師として招かれ、学院草創期の発展を支えた。



モード B. ドージャー愛用の聖書扉にサインがある。聖書の本文は日本語。



E.S.S.のシェイクスピア英語劇



『西南学院一覽』(1931年)

高等学部教授一覧および中学部教職員一覧にベーカー、ワトキンス。ともに修士号をもつ英語教員であった。



ベーカー(前列右から2番目)、ワトキンス(同3番目)と中学部生徒たち(1930年頃)

## 第2章 学院の発展と女性宣教師たち

ドージャーが1933年に54歳の若さで急死した後も、妻モードは福岡にとどまり、女子教育と幼児教育に尽力し、「マザー・ドージャー」と慕われた。モードは1940年に本学人間科学部児童教育学科の前身である西南保姆学院を設立した。また、1938年から40年まで学院で教壇に立っていた A. グレーヴスは、戦後いち早く来日し、1976年までの長きにわたって大学文学部で教え、E.S.S.でシェイクスピア英語劇の指導に情熱を傾けた。

## 第3章 女性宣教師たちの現在地

2000年、米国南部バプテスト連盟は信仰宣言を改訂した。その内容は、「女性は牧師にはなれない」、「妻は夫に従うべき」など根本主義（ファンダメンタリズム）の影響を色濃く反映したものであった。2002年同連盟は、この信仰宣言に賛同する署名を各宣教師に強要したが、西南学院で働く宣教師および福岡市在住の宣教師全員がこの署名を拒否した。署名を拒むことは国際宣教局からの解雇を意味した。こうして2004年に学院には宣教師が不在となった。学院に所属していた5人の宣教師のうち3人が専任教員となり、このうちシャフナーは2014年に本学最初の女性の学長となった。また、リディア・ハンキンスは学院の専任宗教主事となり、チャペルをはじめとする本学のキリスト教活動を支えた。



『キリスト新聞』に掲載されたハンキンス夫妻の公開書簡(2003年7月19日)

▼ 左からシート、ハンキンス夫妻、パークレー、ジョンソン夫妻、シャフナー



宣教師記念碑を囲んで記念撮影を行う最後の宣教師(2008年)

西南学院史資料センター

お問い合わせ 西南学院史資料センター

〒814-8511 福岡県福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL 092-823-3920 FAX 092-823-3184

E-mail swaro@seinan-gu.ac.jp



### アクセス

福岡空港 → 西新駅下車……約19分  
博多駅 → 西新駅下車……約13分  
天神 → 西新駅下車……約7分

※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分

バス 博多駅前B(薬院・城南線方面) → 修験館前……約35分  
天神三丁目(15:西向き)(大濠公園・西新方面) → 修験館前……約20分

※修験館前バス停から徒歩5分

